

# 文学教材指導の一例

— 一ふさのぶどう —

## はじめに

この数年來、私は、文学教材を扱うたびに、その指導のむずかしさを体験し続けてきた。本気で、たち向えば向うほど、何か自分でも、物足りなさを味わい、悲哀を感じざるを得なかった。さまざまの資料を読めば読むほど、まよいが出てくる。早くこんな状態から脱したいと考えていた折、本年十一月（三十七年）、中学一年生に、有島武郎の「一ふさのぶどう」を指導する機会を得たので、思い切って一つの考えをきめて、それをおし進めてみることにした。それは、ひとりよがり、間違いだらけであるにしても、それをもとに私は私なりに今後も実験的指導をすゝめ、一つの正しい方法及び方向を体得したいものだと思願している。以下は、そういう状況のもとに行なった、一指導例である。

### I 指導のための教材研究

#### (1) 主題

絵の大好きな主人公の少年は、生まれつき気が弱く、臆病な性格

矢野啓子

のために、心ならずも、ジムという友人の絵の具を盗んでしまうが、受け持ちの女の先生の、優しくもきびしい愛情によって救われ、明かるく正しく生きることを教えられた。ということが、主人公の目を通して描かれている。美しく、悲しい思い出として描かれている。「愛の尊さ」「愛情の二様性」（優しい中にもきびしさのある愛情）。主人公の心を追体験することにより生まれる感動から、主題をつかませるようになるために、第一人称で描かれていると思われる。

#### (2) 構成

時間の経過にそってみると、四段にわけられる。それをさらに、場所・人物によって細分すると、次のようになる。

#### (A) 事件の日まで

主人公の少年が、学校の往復の風景があまりに美しいので、それをうまく描きたくなったが、自分の絵の具ではそれが思うよう

に表わせない。その時ふとジムという友だちの絵の具を思い出し、父母にほしいと言えないまゝに、その気持ちは一そうつもの。ついにある日盗みをするようになるまでの動機が美しく、克明な描写で示されている。少年の性格描写も見逃せない。先生の愛を浮かび上がらせる主人公の行動の伏線である。

(B) 事件の日

(1) おべんとうの時間。教場で。

ほしくてたまらなくなる気持ちの高まり。その日の天気と主人公の心理の対照の妙味。

(2) 盗みをする時の心理。昼食後。教場。

盗みずにはいられた気持ちは、比喻表現を用いて、巧みに描かれている。

(3) 盗んだ直後の複雑な心理。次の授業時間。

周囲のようすと自己の暗く、つらい気持ちと比較している。

(4) 友人に盗みを問いつめられた時の心理。運動場で。

主人公の心理、性格の複雑さが生き生きと表現されている。

(5) 先生の前につれていかれた少年の心理と、先生の暖かい理解あるさとし。(先生の部屋で)

翌日の場面とともに主題把握のための大切な箇所である。先生の言動に接して少年の心は深い悔恨の情で満たされ、やがて深く反省する。翌日の先生の態度とともに深く読みとる必要がある。

(C) その翌日

(1) ジムの出迎え(門の付近)

思いがけないジムの出迎えに、主人公は、驚きつつも、しだ

いに勇気づけられていく。ジムの友情。

(2) 先生の部屋で

ジムの友情を導いた先生の愛。ぶどうを半分ずつ与えて親友を作らせ、弱い心を立ち直らせた先生の愛、愛の深さ、尊さを表現面からも、内容の面からも読みとらせる。

ことに、色彩感覚のすぐれた描写に読みひたらせる必要がある。

(D) 美しく悲しき思い出

遠い日の、美しい印象をなつかしく思い出す少年のおとなの日の姿。その心の中を想像することにより、主題の把握を、きっちりおさえる。

(3) 表現研究(文章の特質)

(A) 文体

(1) この文はほとんど敬体表現で通してある。

内容から感じられる、優しさ、美しさ、主人公の先生に対する気持ち等を、この敬体表現が一そうひきたてている。

(2) (當体の部分が、文中、二、三ヶ所ある。これは、主人公の切迫した心理を効果的に表現するために用いられている。敬体と、當体のつかいわけを考えさせることも忘れてはならない。)

(B) 感覚的表現

心理や、情景を具体的に表現するために、比喻表現を用いて、効果的にしているところが、いたる所に見られる。なお、ここで、「…のように」、または「…のような」ということばが、どのことばを、くわしく言い表わしているのか合わせて考えさせることも大事である。

1 比喩表現で心理や情景をあらわす。

○目がいたようにきれいでした。

○へたな絵さえなんだかみちがえるように美しくなる。

○ぼくは急に頭の中が氷のように冷たくなるのをきみ悪く思いながら、ふらふらと……………

○半分夢のようにそのふたを上げてみました。

○空の奥の奥まで見すかされそうに晴れわたった日

○もう先生に抱かれたまゝ死んでしまいたいような心持ちになっ  
てしまいました。

○宿題をなまけたのに先生に名をさされた時のように、思わずど  
きんとふるえ始めました。

○きのうのことなんかわすれてしまったように、親切にぼくの手  
を引いて……………

○大理石のような白い美しい手は……………(特にここでは、手を修飾  
する三つのことばに注意させる。)

2 色彩感覚のよくあらわれた表現。

○すきとおるような海のあい

○白い帆前船などの水ぎわ近くにぬってある洋紅色。

○あいと洋紅色とはびっくりするほど美しい。

○あめのような色の木のえのぐ箱。

○まっ白いリンネルの着物。

○まっ白い左の手

○むらさき色のぶどう  
○細長い銀色のはきみ

今でも思い出すことができる。

3 ことばを重ねて使うことで、心理を効果的に表現する。

○ほしくってほしくってたまらなくなりましたけれど

○さびしくってさびしくってしょうがないほど悲しくなりまし  
た。

○かみしめてもかみしめても泣き声が出て

○空の奥の奥までみすかされそうに

○いくらかいてもかいても…かけませんでした。

4 擬態語・擬音(声)語の効果的表現

○ふらふらとジムのテーブルの所に行って……………

○きょっとして立ち上がりました。

○生徒たちは……………どやどやと下におりていってしまいました。

○ぶるぶるふるえてしかたがなくないくちびるを……………

○しくしく泣きだしてしまいました。

○もじもじしていますと……………

○気ばかりせかせかしていました。

5 動詞や、助動詞を使った強調表現

○にくみきったように……………

○はれわたった日……………

○いつつけました。

○あんな絵の具さえあれば

○胸が痛くなるほどほしくなっ

○疑っているように見れば見えるほど、…ほしくってならなくなるのです。

○へたな絵さえなんだか見ちがえるように美しくなるのです。

○もう死んでしまいたい…

副詞との呼応

○どうしても…したくない

○みないではいられない

○またとありません。

## 6 その他克明な心理・性格・情景描写

○その日からジムの絵の具がほしくてほしくてたまらなくなりましたけれども、ぼくはなんだかおくびようになって、ペペにもママにも買ってくださいと願う気になれないので毎日毎日、その絵の具のことを心の中で思い続けるばかりで、いく日か日がたちました。(心理・性格)

○ジムはぼくの胸の中で考えていることを知っているにちがいないと思つて、そつとその顔を見ると、ジムはなんにも知らないように、おもしろそうに笑つたりして、わきにすわっている生徒と話をしているのです。(心理・情景)

○ぼくはかわいい顔をしていたかもしれないが、からだも心も弱い子でした。その上おくびよう者で、言いたいことも言わずにすますようなたちでした。だからあんまり人からは、かわいがられなかったし、友だちもないほうでした。(性格)

○ぼくのからだはひとりでにぶるぶるふるふるえて、目の前がまっ暗になるようでした。いいお天気なのに、みんな休み時間をおもしろそうに遊び回っているのに、ぼくだけは、ほんとうに心か

らしおれてしまいました。(心理)

○けれども次の日が来ると、ぼくはなかなか学校に行く気にはなれませんでした。おなかが痛くなればいいと思つたり、頭痛がすればいいと思つたりしたけれども、その日に限つて虫歯一本痛みもしないのです。(心理)

その他、いたるところに見られる。これらは、文が長く構造がつかみにくい点があるので、主語・述語・修飾語などをおさえて指導したり、接続助詞などを注意させて、理解させるように指導したい。次の項目の文法的表現と大いに関連をもつ。

## 7 文法的にとりあげるべきことは

○並立のいい方

1 ……だの……だの

2 ……と……と

3 ……のや……のや

○「ながら」の識別

①二つの動作が同時に並んで行なわれることを示す「ながら」  
○自分の悪い絵の具をうらみながら考えました。

○ぼくはいやいやながらがうちは出ましたが…

○ぶらぶら考えながら歩きました。

②くいちがう二つのことをいう「ながら」(のに、けれども)

○二度とあえないと知りながらいたらなあと思ひます。

(4)作者有島武郎について(その生涯と作品)

○一八七八年(明治十一年)東京に生まれた。

○一八八二年、四才の時、妹愛子と共に、米国人の家庭で生活し、後に横浜の山の手の英和学校に入学。一方自分の家庭に帰る

と、父からきびしい武士道的な教育(馬術、剣道など)を受けた。  
(「一ふさのぶどう」は、この頃の出来ごとを基にして書かれたものと言われる。)後、学習院に転校。

○一八九六年、七年頃

十八才で北海道に渡り、新渡辺博士の家に寄宿し、次第にキリスト教に近づいていくが、そこにも安住できない。

○一九〇三年、米國に留学。歴史学、経済学を学ぶ。

○一九〇七年、志賀直哉、武者小路実篤らと知り合う。後の文学活動に大きな影響があった。

○一九〇九年、結婚。

○一九一一年、白樺創刊。「ある女」を発表。キリスト教的信仰と訣別。

○一九一六年、妻と父の死に合う。この悲しみが転機となり、文学活動が盛んになる。「惜しみなく愛は奪う」を発表。

○一九二一年、ホイットマン詩集を刊行。この年、数多くの童話を発表した。「一ふさのぶどう」「溺れかけた兄妹」「基石ののんだ入っちゃん」「僕の帽子のお話」等。

○一九二二年、「宣言一つ」を発表。八月狩太の有島農場を解放した。「片輪者」「火事とボチ」などの童話も発表。

○一九二三年、六月、自らの命を絶つ。

○彼の生涯は、愛を求め、愛を貰き通した生涯だといってもよいであろう。しかし、それはたくましい愛の力ではなく、せん細な傷つきやすい愛であったため、一生なやみ続けたのであった。しかしそこから彼の作品は生まれてきているといえる。ではこのような愛を何がつくりだしたのか。一つは、生来の芸術

的なせん細な性格、もう一つは父の教育から生まれた後天的な性格である。(これは環境といってもよいであろう。)ことに父の厳格な教育は、彼に形式を重んじる傾向を強いていったように思われる。「一ふさのぶどう」にも書いてあるような、思っていることも他人に言わずにすませる性格をつくりあげたようである。しかし、生来の感受性の強さは、しばしば内心で、表面を重んじる心をうち倒そうとした。が、結局は失敗におわり、そのたびに彼の心中の愛は傷ついていった。「一ふさのぶどう」は、彼が愛というものに感動させられた最初の印象深さをもとにして作品化したものであると言われる。

#### (5) 参考資料

○有島武郎 (国語と文学の教室) 伊豆利彦著 福村書店

○有島武郎 坂本浩著 (成城国文学会)

○有島武郎 (新日本少年少女文学全集) ポプラ社

○有島武郎名作集 瀧沼茂樹編 (少年少女日本文学選集) あかね書房

#### Ⅱ 指導の実際

##### (1) この単元の指導目標

前述の教材研究をふまえて、この単元では、指導目標をどうするかを考えて、次のような結果を得た。

(A) 作品を楽しんで読みあじわう態度を身につけさせる。

(B) 主題をしつかり、確実に把握する技能を身につけさせる。

(C) 構成、及び作品の内容に充分注意をはらって読む態度を身につけさせる。

(D) 表現の特質を理解する技能を養なう。

(E)物語から感じとった感動や疑問点、印象を、自分自身で考え深めていく態度を身につけさせる。

(F)読後の処理の仕方をつけさせる。

(G)日常の読書生活を広げ、高めていく態度、技能を身につけさせる。

## (2)指導上の留意点

前述の指導目標を、生徒の一人一人が、積極的に、確実に定着させることを期すために次の点に留意することにした。

(1)文学鑑賞指導の窮極は、子供ら個々の抱いた問題意識を自主的に追究させるように方向づけることだと言われている。文学作品の読解指導のばあい、彼らの一人一人の内面からわきおこった生活経験的な、具体的な感想や感動を、大事にとりあげてやり、これを出発点として、次第に教材を読み深め、考え深めていく姿勢に導いていくことが第一であろう。しかし、そのみに終始したのでは文学鑑賞から逸脱するおそれがあるし、また正しい文学鑑賞指導は行なわれない。あくまでも彼らの自主的学習を尊重しつつ、教師の指導体系に結びつけること。

(2)文学作品の読解、鑑賞指導の中においても、ことばのまきまきの指導や、読む・書く・聞く・話すという言語活動をバランスをとって織りこみたい。往々にして、読解・鑑賞活動の中では遊離しやすいのでぜひ心がけたい。

(3)人物の行動や心理をつねに表現に注目させて具体的にとらえさせる。それによって生徒の脳裏に生き々とイメージを抱かせ、具象的に鑑賞させたい。

(4)この教材では、漢字、意味の学習は家庭学習を原則とするが、

意味は文脈に即して理解させることに注意する。

(5)感想文を書く際には生徒の負担にならぬように注意したいと思う。そこで感想のかき方の一形式として、この作中の人物、すなわち主人公の少年、ジム、先生及び作者有島武郎に手紙を書くのもよい方法ではないかと考えられるので、このばあい、とり入れてみることにした。

(6)このようにして得た感想を、発表会で発表しあうことにより、主題の確認や感想の発表技能、疑問点の解明の手がかりにさせたい。

(7)この単元の発展的学習として、有島武郎の童話を二、三篇読んで聞かせて、彼らの読書生活の領域をより高く、広くし、充実させてやりたい。

## (3)学習指導の過程

イ日時 昭和三十七年十一月中旬

ロ学年 第一学年(一学級、約五十五名)

ハ教材 新国語 一 (三省堂)

ニ単元 9 人間の心

ホ題材 一ふさのぶどう 有島武郎

「人間の心」の単元は、この他に

○へいを塗るトム||ソーヤ マーク||トゥウェーン

○解説 感想文を書こう から成っている。

○教科書の教材配置では「へいを塗るトム||ソーヤ」の方が先であるが、私は生徒に小説(物語)をじっくり味あわせたいと考え、「一ふさのぶどう」を先に扱うことにした。

(4) 感想の中から四点を引用してみる。

①先生へ（作品中の）男 K・M

先生、私はあなたに会ってみたくになりました。それはこの本を読んでいるうちに、「ぼく」に代わってお礼をいたく、また彼のようになんか親しみがわいてきたからです。あなたは、「ぼく」がしたことを責めずに、やさしくなぐさめ、その中で深く反省させ、さらに元気づけてくださいました。本当にありがとう。もしあなたが「ぼく」を責めていたならば、今頃「ぼく」はどうなっていたでしょう。彼はきつとくじけて、良い子にはなっていないかったですよ。

私も読んで いるうちにあなたのお顔がうかんできて、あなたが「ぼく」とジムに一ふさのぶどうを与えている場面が頭にはっきり浮かびます。ぼくは先生のような方が私の目前に現われてくれればいいなあと思います。

ぼくがもし「ぼく」のような少年にであつたら、先生と同じように、責めずに 暖かい広い愛情で元気づけることができるでしょうか。

ぼくはあなたみたいに、人をどこまでも信じ、見すてないで愛して いける心の持ち主になりたいと思います。

②主人公の少年へ 女 Y・T

あなたのひっこみじあんな、臆病な性質が、私によく似ているの でああなたの気持ちはよくわかりました。

でも、あなたはなせジムに「ジム君の絵の具をちよつと貸してく ださい。」と言わなかったのですか。私でもそのくらいのことと言

えると思いますよ。それに、私だったら、父か母に、あるいはほかの 友人に相談しますよ。あなただって言えないことはなかったはずで す。ただあなたは、自分から、ひっこみじあんで、臆病者だときめつ けているからいけないんです。人間、なんでもやればできないこと はありません。でも、先生の暖かいとりはからいであなたもいい子 になってよかったですね。先生の暖かい、やさしい気持ちを忘れて はいけませんよ。これからも、先生のご恩に報いるためにも、あな た自身のためにも、一生懸命がんばって下さいね。

③ジム君へ 女 K・I

……前略……

ジム君は、心のさっぱりとした、男らしい心の持ち主ですね。 たとえば、「ぼく」があくる日、学校の門をはいろうとした時に、 とんでいって手をひいて先生のへやに行きましたね。そして、どぎ まぎしている「ぼく」の手をとって、握手した所など……私は、先 生の力だけで「ぼく」を救ったのではないと思います。もしあの 時、ジムが「ぼく」をうらみに思つて、いつまでも他の友だちと一 緒に白い目でみたら、「ぼく」は学校に行くのがいやになり、ます ます弱い子供になったかもしれません。あなたは本当に大らかで、 すなおな良い子だと感心しました。いつまでも「ぼく」の親友にな ってやって下さい。

④作者有島武郎さんへ 女 R・O

あなたの書かれた「一ふさのぶどう」には心から感動しました。 主人公の少年とジムの友情、そして先生の深い愛情が、心にくいば かりに美しく描かれています。国語の先生に聞いてあなたについて の本を図書館で少し読んでみました。これはあなたの少年時代の

経験をもとにした物語だそうですね。私はあなたがなぜこういう物語をお書きになったか大体わかるような気がします。あのやさしい先生をなつかしく思い出し、先生から受けたような深い愛情が、どんなに世の中で大切かということ、みんなに理解してもらいたいために、お書きになったのではないかと思います。そしてこれは、あなた自身が、深い愛情の持ち主だからこそ、こんなにも美しく素晴らしい物語が書けたのだと思います。そしてますます尊敬の念をいただきました。先生の示した愛は、悪いことはいましめ、その上、正しく強く生きるように導いていく、深くきびしい愛なのです。だれでも持てるような、簡単な愛情ではないことを深く知りました。このような愛が、今の世の中ではとても必要なのではないかと思えます。こんな愛情を、本当の、価値ある愛情といえるべきでしょう。……中略……少年が、父母にも絵の具をほしいといえなままに、悪魔の声に負けてしまったという場面や、先生の部屋で、やさしくさとされている場面が、目にみえるようです。

私はこれからもあなたの作品をもっともっと読み、人間の本当の愛情について考えてみたいと思います。

(5) 感想評価カード

次に図示する評価カードを各自が一枚ずつ持って発表を聞いた。そのため、かなり真剣に聞いたり、発表したりすることができたように感じた。

年月日	評価メモカード	氏名〔 〕
発表題目		発表者氏名
	評価項目	点数
1	話の内容が大体つかめたか	1. 2. 3. 4. 5.
2	要点がまとめたか	(以下同じ。省略)
3	わかりやすいことばであったか	
4	姿勢や態度はよかったか	
5	速度、間のとり方はいいか	
6	話の調子(抑揚)や声の大きさは適当か	
7	話の尾まてははっきりしていたか	
全体の感想		反省自己

感じ方をしており、うまくかきあらわしていて、しかも発表もよいので、自分がはずかしくなった。

○こういう学習は変化があつて楽しい、今後もしょくやつてほしい。

などさまざまであった。大体において、楽しく学習したということがいえそうである。

問題点と今後の課題

以上の学習を終えて、いさゝかの満足感を味わうことができた。

この感想欄、反省欄に書かれたものを、二三とりあげてみると

○友だちの発表を聞くとき、いろいろな考え方や感想があつて、とても勉強になる。  
○みんなすばらしい

しかし、反省してみるとまだ、力の至らぬところが多くて、またがっかりするのである。その至らぬ点を少しばかり問題点としてあげ、今後の課題として、継続的、計画的に研究していききたいものだと思つてゐる。

(1) 動機づけのばあい、作者について、あるいはその作品について、どの程度指導すべきか、またそれを動機づけとして行なつてよいものかという点でも随分迷つた。あまり、その点に触れると、生徒が彼らなりの意識で作品を読み味わえないのではないかも考へられるし、また逆に、「一ふさのぶどう」のばあいのように作者自身の体験を素材としたものは、話した方が理解させやすいとも考へられる。小説教材の学習指導をするばあいによりその方法は異なるが、今後研究してみたい。

(2) 生徒の素朴な感想を、指導体系に組み入れるという目標はある程度達成できたように思う。しかし、まだ、研究、工夫の余地がある。教師の予期しない感想や疑問点の扱いをもっと掘り下げたり、あっさり扱ったり取捨選択の余地あり。

「一ふさのぶどう」

指導過程

(3) この教材の美しさを理解させるために、あまりに一方的に生徒への指導がおしつけられてはいないか反省している。

(4) 感想文を書かせる際、生徒の心理的負担を軽くするために、作中人物あての手紙を書かせる方法をとつたことは、彼らの反省文を読んでみて収穫であつたと感じた。なお、発表会の際、成續の平素ふるわない生徒にも参加させ、勇気づけたが、これも案外に効果があつたことが、近ごろになつてわかつてきた。

(5) 発展的指導として、武郎の他の作品「火事とポチ」「碁石をのんだ入ちゃん」等を朗読して聞かせたが、生徒は意外にも喜んだ。彼らは、宿題に追われて、平素は読書ができないと嘆いていたので、今後、どしどしこの方法をとり入れたいと思つた。有島に興味を持ち、個人的に読書指導を受けた生徒も二、三人いた。

(6) 最後に、学習指導は、教師の教材研究の度合い、指導の体勢の整え方がいかに影響するか身にしみて感じたことを加えたい。

学習の中心 学習活動の目標 理解、鑑賞 (「読む」)	(「第一時」) ○作品の大事じをつかむ	学習活動 1 音読する。 2 その際、聞く者は、一番心	指導上の留意点 1 ○教師による範読または、生徒の中の朗読のすぐれた者 2 ○第一読からメモをとらせることは、能力の低い生徒に負担になるので、最初は、ラインを引く				備考 クラスの希望でどちらかをはじめに決めたが、積極的な生徒の多いクラスは、生徒で朗読ということになった。
-------------------------------------	------------------------	-----------------------------------	---	--	--	--	--

○感想をメモしたり、話し合ったりする。

〔話す〕

に強くひびいたか所にえんぴつで教科書に線を引くように指示しておく。

3 ラインのか所を二、三人発表する。

4 黙読して、メモ用紙に感じたことをメモさせ、発表、後に提出させる。

ことから入ることにしている。

3 ○メモをする糸口をつかませる。

4 ○第二次以後の学習の資料として用いる。

○用紙は、西洋紙、四分の程度。

○発表は、文章そのものの引用や、人物に対する感想等自由に。教師がまとめて板書。

○メモをもとにして、自分の意見が、はっきりのべられるように注意する。

○ジムに対して友情の美しさを讚美する者がクラスのをしめていた。

○主題を、ここから次第に導いて行くことが次からの課題となった。

○また、なぜ他人の物に手をかけたのか、それを先生は、なぜ叱らないのか等の、道徳的な観点からの疑問が出されたので、これを手がかりにして問題を考え深めて行くことにした。その際に注意すべきは、あくまでも本文に即して考えていくことである。単なる道徳的問答に終わること

話し合いのまとめ

●主人公の少年「ぼく」について

1 この少年は、何と気が弱いのだろう。臆病すぎる。

2 どんなことがあっても、他人の物に手をかけるのはよくない。

3 でも、翌日先生のことばを忘れないで、よく学校に来たと思う。感心する。

▲なぜ他人のものをとったのか。

▲なぜ両親に買って下さいとたのまないのか。

▲なぜ西洋人ばかりの学校に行つたのか。

●ジムについて

1 「ぼく」に対するジムの友情の美しさに感激した。(30人)

2 このジムは心のおおらかな人だろう。

3 自分達もこんな友情を持ちたい。

<p>鑑理賞解</p>	<p>〔ことば〕 の学習</p>
<p>〔第二時〕 〔第三時〕</p> <p>○主人公の少年の心理の変化及び性格について調べる。</p>	<p>5 生徒の中に、有島武郎について調べてみたいという者があったので、簡単に、幼年時代と、「一ふさのぶどう」との関係調べておくように指示した。</p> <p>6 新出漢字の説明、書き方、意味、その他難語句の予習を課題とする。</p>
<p>1 前時のメモを整理し、もぞろ紙にまとめたいものを黒板にはり、疑問点を中心に考えを深めていく。</p>	<p>となく、主題、及び主人公の心理、性格を把握するための手がかりとして扱うことである。</p> <p>5 ○教師が参考書とページを示して与え、大体の要領を指導した。</p> <p>次時約三分発表することにした。</p> <p>中学生であるから、簡単に扱うことに注意した。</p>
<p>1 ○最も問題になった「なぜ『ぼく』は、ジムの絵の具をぬすんでしまったのか」を、とりあげる。</p> <p>○本文より「心も体も弱い子でした」というか所を二か所引用する。</p> <p>2 前時、有島武郎について調べた生徒の簡単な発表をとりあわせて性格を考える。</p> <p>話しあい</p>	<p>6 ○この作品では、とりわけ難しいものは見当たらないので軽く扱う。</p> <p>○文化委員が、小黒板に書いておく。授業の始まる前に、文化委員が中心になり、予習復習することになっている。</p>
<p>生徒の関心事を無視せず、それをカギにして主題に持って行きたいので苦心した。</p> <p>武郎の幼年時代の環境も参考にすると、多少納得できる生徒もいた。</p>	<p>▲自分のものをとられたのになぜ許すのか。</p> <p>●先生について</p> <p>1 先生がいなかったら、この「ぼく」はすぐわれなかつただろう。</p> <p>2 なんとやさしい先生だろう。</p> <p>3 こんな先生と話してみたい。</p> <p>▲先生は、なぜ叱らないのか。</p> <p>●表現の美しいところ。</p> <p>1 ぼくがジムの絵の具をぬすむ時の気持ち。</p> <p>2 先生が二人の少年にぶどうを下さるところ…</p> <p>3 思い出の中の先生の描き方。</p>

鑑賞  
理解

このばの  
きまり効  
果を考え  
る

〔構想〕

2 二郎の幼年時代の発表。

3 心の葛藤を表わす場面をさがし音読してみる。

表現から心理をさぐっていく。

4 主人公の気持ちの移り変わりを調べる。

〔手引A二〕

時間・場所・人物などに注意して心理の変化をたどる

5 ○主人公の性格をもう一度全体的な立場から考

てみる。

●先生や、ジムはなぜやさしくしたか、ま

○心が弱い子なので、悪魔の声に負けたのだ。  
○本心から悪人ではない。

○この心理をあらわしたか所を (P225 P226) を音読して味わう。

3 ここを中心に逆に、そのようになったいきさつにもどり、もう一度返って、考えを進めた。

③ ほしくなりたいきさつ、夏のはじめ頃 (港の美し  
しいけしきをみてかきたい)

② ほしくてたまらない気持ち (事件の日、「おべん  
とうの時間」)

① ジムの絵の具をとる時の気持ちと様子 (風食後、教室で)

⑥ 絵の具をとったあとの気持ち (教室、午後の授業中)

⑦ 友人に責められた時の気持ち (運動場のすみで)

⑧ 先生のへやへつれていかれた時の気持ち

← (先生の部屋、先生のやさしさと少年の心理)

⑨ 学校へ行くまでの気持ち (次の日途中)

⑩ ジムが出迎えてくれた時の気持ち (門のあたりで)

あくまで本文に即して考えさせる。

○表現の巧みに注意させる。  
○ほしい気持がどんなに高まっていったか、充分読みとらせる。

○「ほしい」「いけない」という心理のかつとうをおさえさせる。

○天候と心理の比較をぬき出させ、効果を考えさせる。

② ③ 周囲の人の心理と少年の心理対照。

① ひゆ表現、感覚的表現。

⑦ ⑧ (擬態語・擬音語) のつかい方。短文。

⑦ ⑥ ことばの重ねたい方による強調法等の効果に注目させる。

⑧ 先生のやさしい中にもきび

鑑賞	
<p>○「第四時」 ジムと先生 について話 しあう。</p> <p>○主題をつ かむ</p> <p>○題名につ いて考える。</p>	
<p>1 ○ジムはなぜ 出迎えたの か。</p> <p>2 この少年はど うしていい子 になったのか 考えてみる。</p> <p>3 「ぶどう」は、 どんな所で、 どんなふう</p> <p>(主題)</p>	<p>た、少年はそ れに対してど んな気持ちにな ったかを大ま かによりとら せる。</p> <p>(構想のヒン トを与える)</p> <p>6 ⑧ ⑨ ⑩ ⑪で は、少年の心 理を、先生や ジムの言、動 と対照して考 える。</p>
<p>1 先生の美しさをあらわすことばを抜きがきする。 それから、作者の、先生に対する思い出を考えて みる。</p> <p>2 先生の広い愛が「ぼく」の一生をすくったことを 話し合わせる。「愛」とは、どんなものかについ て話しあう。</p> <p>3 ぶどうで先生の姿が象徴されていることを理解さ せる。</p>	<p>⑩ 先生の部屋で(ぶどうを二人に下さる時)</p> <p>⑪ 思い出の中の先生(成人してから)</p> <p>5 ○主人公の少年は、弱い中にも、いじっぱりな面 があることに話が及ぶ。</p> <p>○ 先生の言葉をわすれず、翌日登校したすなおさ 等話し合わせた。</p>
<p>〔教材研究の項参照〕</p>	<p>しさのある態度をみおとさ せないようにする。</p> <p>⑧ ○なぜ先生は叱らないのか。 という疑問に対する解答と ⑪ なるか所を充分読みとら せ、考えさせる。</p> <p>⑩ ジムはなぜ心よく迎えに来 たのだろうか。</p> <p>から、先生の愛情↓主題を しつかりつかませる。</p> <p>⑪ ぶどうの場面の色彩的感覚 の美しい表現を鑑賞する。 朗読。</p> <p>一つのをなぜ二つに切っ て与えたのかも考えさせる。</p>

<p>〔話す〕</p>	<p>かかれている かを考えさせ る。</p>	<p>なせ一さのぶどうを二つに切つて与えられたかも、 もう一度考えさせる。</p>	<p>4 白いリンネルの着物 銀色のほさみ 白い手 紫のぶどう 5 まとめの意味で</p> <p>哀愁のある 清らかな 美しさ 落ちついた</p>
<p>整理 〔感想文 を書く〕 〔手紙の 形式〕</p>	<p>〔第五時〕 まとめと 感想文 表現研究</p>	<p>1 表現の特徴 をもう一度 まとめてみ る。 2 「感想文を 書く」を 黙読させ、 意義を考 える。</p>	<p>1 今まで読解作業の中でとりあげたものまとめ ○文体：敬体表現の効果も合わせて考える。 ○修飾語のかかり方も二、三注意。 ○「ながら」の用法の練習。 2 この場合、作者・主人公・ジム・先生あてに手紙 の形式で感想を書かせる。自由に、どしどし枚 数、制限なし。かけないところは家庭で仕上げて くる。</p>
<p>整理 〔話す〕 〔聞く〕</p>	<p>第六時 感想発表 へいをぬる トムソーヤ の感想と合わ せて発表した</p>	<p>① 1 主人公へ ムへ ② 先生へ ③ 作者 への四種にわ け、二人ずつ 八名の発表。 2 有島の 「火事」とポ チ」を範読す る。</p>	<p>○大きく者は、評価・感想カードを持ってきく。 (カード前に示す) ○能力の低い生徒のものも、とりあげて、自信をつ けてやりたい。 ○図書館の有島武郎に関する図書を紹介する。</p>
<p>聞く態度が、くずれがちなの で、ひきしめるためと話す方 も励みになるので、プリント をしてわたした。</p>	<p>○いわゆる感想文とは異なる ので、みんな喜んで書いた ように思う。</p>	<p>③ こまかいところにまでゆき とどいた愛情を示される先 生の姿。 ④ 友をつくって勇気づけられ る姿。</p>	<p>(広島市宇品中学校教諭)</p>